

事業報告書

TAKETOMIJIMA

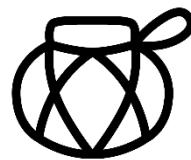
2022 年度

REGIONAL

FOUNDATION

ANNUAL REPORT

2022



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団



Contents

目 次

ご挨拶	• P 03
竹富島	• P 04
決算概要	• P 05~06
入域料収受実績	• P 07
島内賛同事業所一覧	• P 08
取り組み経緯	• P 09~12
活動報告（地域計画概要）	• P 13
（防風林の植林）	• P 14
（耕作放棄地の再生）	• P 15
（ゴミ箱問題の解決）	• P 16
（海浜清掃）	• P 17
（外来種の駆除と処分）	• P 18
（島の現状活動のPR）	• P 19~21
（伝統的建築技術の継承）	• P 22
（その他）	• P 23~24
広報事業	• P 25~27
組織概要	• P 28
寄付のお願い	• P 29

Greeting

ご挨拶

2022年度の一般財団法人竹富島地域自然資産財団年次報告書発刊にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

2022年は想像もしてなかつたことが世界中で巻き起こつた一年となりました。依然として残るコロナ禍の影響に加え、世界各地の紛争が社会に影を落としました。そしてその影響は日本の隅に位置するこの小さな竹富島でも起きました。島内コロナ感染者が過去最多となり祭祀行事や集会の制限、ウクライナ侵攻や円安の影響による石油高騰など厳しい状況が続いた一年でした。皆さまの周りでもいくつもの課題が発生したり、それを乗り越えたりしてきた1年だったのではないでしょうか。

当財団におきましても、様々な環境の変化が求められる中、学びながら行動する、行動しながら学びを重ねていくことを念頭に、時代に合わせたカタチでの活動を行ってまいります。めざすべき姿、果たすべき使命は自然環境保全事業や自然環境トラスト活動を通じて島を再生し、次の世代へバトンをつなげることです。

引き続き、ご理解ご協力を賜わりますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

一般財団法人竹富島地域自然資産財団

理事長 上勢頭 篤

Taketomijima



竹富島

竹富島は、東京から南西に約2000キロ、沖縄本島からも約400キロ離れた場所にある周囲9.2km、人口わずか360名程度の小さな小さな島です。沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチを求めて年間約50万人もの観光客が訪れており、島では近年、オーバーツーリズムや観光開発など多くの問題に頭を悩ませています。そこで私たちは、これらの問題の解決に望むべく、2019年5月一般財団法人竹富島地域自然資産財団を立ち上げました。当財団では来島者から入域料を募ることで島の保全活動や財団運営を行っています。

Financial Report

決算概要

今期の入域料収入約1,288万円は第1期比134%と大きく増加しました。

一方で徴収率11.2%は全4期の内で二番目に低い収受率となっています。

コロナが収まりりつつあり来島者が増えてきた今、周知拡大に向けた事業展開を図ります。

貸借対照表

令和5年3月31日現在

科 目	当年度	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	13,085,143	
未収金	381,000	
仮払金	797	
流動資産合計		13,466,940
2 固定資産		
(1) 基本財産		
普通預金	3,000,000	
基本財産合計		3,000,000
(2) 特定資産		
トラスト事業資産	2,473,000	
特定資産合計		2,473,000
(3) その他固定資産		
什器備品	41,408	
機械装置	1,526,895	0
その他固定資産合計		1,568,303
固定資産合計		7,041,303
資産合計		20,508,243
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	31,748	
預り金	21,674	
未払費用	115,000	
未払法人税等	157,300	
流動負債合計		325,722
負債合計		325,722
III 正味財産の部		
1 指定正味財産		
拠出金	3,000,000	
寄付金	1,373,000	
指定正味財産合計		4,373,000
(うち、基本財産への充当額)		(3,000,000)
(うち、特定資産への充当額)		(1,373,000)
2 一般正味財産		
(うち、特定資産への充当額)		15,809,521
正味財産合計		(1,100,000)
負債及び正味財産合計		20,182,521
		20,508,243

Financial Report

正味財産増減計算書

令和5年3月31日現在

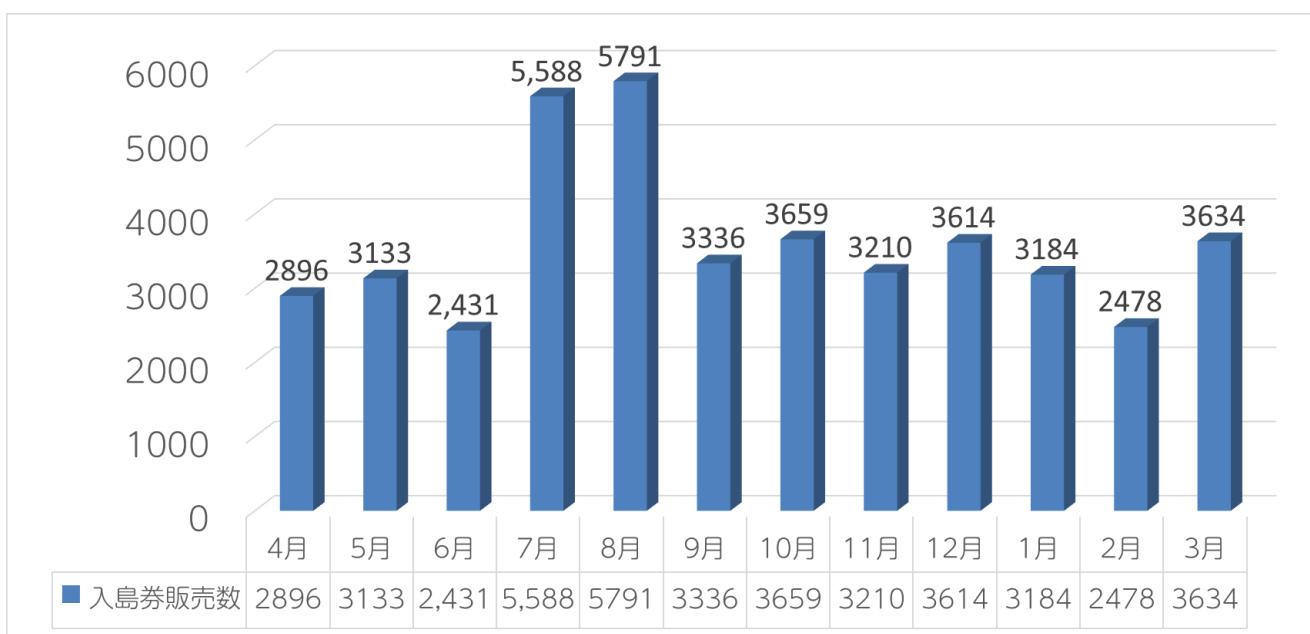
(単位:円)

科目	公益事業	収益事業	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
入島料収入	12,886,200		12,886,200
受取補助金等	1,387,978		1,387,978
その他収入	154,100	589,156	743,256
受取寄付金	23,442		23,442
一般寄付金	23,442		23,442
雑収益	12,780		12,780
受取利息	80		80
雑収益	12,700		12,700
経常収益計	14,464,500	589,156	15,053,656
(2) 経常費用			0
事業費			
臨時雇賃金	3,657,802	90,674	3,748,476
旅費交通費	41,760		41,760
通信運搬費	100,900		100,900
消耗什器備品費	20,250		20,250
消耗品費	23,361		23,361
修繕費	157,504	4,184	161,688
広告宣伝費	4,805	195	5,000
燃料費	380,362	18,000	398,362
光熱水料費	9,658	392	10,050
賃借料	1,247,680	24,927	1,247,680
保険料	213,859	8,611	222,470
諸謝金	81,000		81,000
租税公課	1,200		1,200
委託費	330,000		330,000
支払手数料	491,920	14,080	506,000
事務用品費	19,766	435	20,201
減価償却費	489,115	19,850	508,965
雑費	44,662		44,662
管理費	2,629,216	105,484	2,734,700
役員報酬	778,410	31,590	810,000
給料手当	749,580	30,420	780,000
諸謝金	106,094	4,306	110,400
会議費	1,038	42	1,080
旅費交通費	115,070	4,670	119,740
通信運搬費	187,155	7,595	194,750
消耗品費	7,592	308	7,900
広告宣伝費	19,705	800	20,505
光熱水料費	84,170	3,416	87,586
賃借料	10,571	429	11,000
事務用品費	123,250	5,002	128,252
租税公課	30,000		30,000
支払手数料	391,910	15,905	407,815
減価償却費	19,866	806	20,672
雑費	4,805	195	5,000
経常費用計	6,287,018	196,158	6,483,176
当期経常増減額	8,177,482	392,998	8,570,480
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	8,177,482	392,998	8,570,480
法人税等		157,300	157,300
一般正味財産増減額	8,177,482	235,698	8,413,180
一般正味財産期首残高	7,396,341	0	7,396,341
一般正味財産期末残高	15,573,823	235,698	15,809,521
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額			0
拠出金	0	0	0
トラスト寄付金等	163,000	0	163,000
当期指定正味財産増減額	163,000	0	163,000
指定正味財産期首残高	4,210,000	0	4,210,000
指定正味財産期末残高	4,373,000	0	4,373,000
III 正味財産期末残高	19,946,823	235,698	20,182,521

Financial Report

入域料収受実績

	入域観光客(名)	入域料(円)	支払数(回)	収受率(%)	備考
4月	26,772	868,800	2,896	10.8	まん延防止等重点措置終了
5月	25,767	939,900	3,133	12.2	
6月	26,250	729,300	2,431	9.3	
7月	35,838	1,676,400	5,588	15.6	
8月	37,913	1,737,300	5,791	15.3	
9月	24,251	1,000,800	3,336	13.8	
10月	36,413	1,097,700	3,659	10.0	全国旅行支援実施
11月	35,258	963,000	3,210	9.1	
12月	30,557	1,084,200	3,614	11.8	
1月	25,680	955,200	3,184	12.3	
2月	30,980	743,400	2,478	7.9	
3月	49,310	1,090,200	3,634	7.3	



Support

財団の活動は、入域料や寄付を頂いた方々に支えられています。
また、入域料の収受は島内企業や団体のご協力により行われています。
皆様の温かいご支援に対し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

入島券販売取扱事業所一覧

2023.02.28.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
NPOたきどうん	民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや	Bar 月灯り
新田觀光	民宿 新田荘	星のや竹富島	アイランド	友利レンタサイクル

島内賛同事業所一覧

2023.02.28.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや	Bar 月灯り	新田觀光
民宿 新田荘	(有) 竹富島交通	喜宝院蒐集館	NPOたきどうん	丸ハレンタサイクル
レンタサイクル竹富	ぼちサイクル	嶺本レンタサイクル	南西観光株式会社	内盛商店
海風～シーカジ～	若竹丸	やど家 たけの子	たきどうん	イナフク
とも倉	縄文や	アイランド	まつていや	竹富民芸館
民芸喫茶マキ	たるりや	そば処 竹の子	食事処 やらぼ	ガーデンあさひ
ひまわり	やまもり食堂	民宿 マキ荘	民宿 松竹荘	パーラーターミ
民宿 なかもり荘	Cago			
一日一組の宿 すかぶら	染織工房 Boo-House	HIMAWARI WORKS (株)	HaaYa nagomi-café	くちゅ& パラダイスカフェ

※島内賛同事業所とは説明会等に参加して賛同書を頂けた事業所を指す

寄付者一覧

2023.02.28.現在

シミズ コウジ 様	タケトミジマコウツウ 様	デザインワークエール 様	

物品寄付者一覧

2023.02.28.現在

タナカ アイコ 様	ウチモリ アサカ 様	シマナカ ユミコ 様	オオヤマ ミツコ 様
オオヤマ エイイチ 様	トミモト マモル 様	イノマタ ヒトミ 様	サカイ マサコ 様

Activities Results

当財団の活動は「地域自然資産法」に基づき竹富町が作成した
「竹富島地域自然資産地域計画」に沿って行われています。

2022年度取り組み経緯

月	日	会議・周知広報	保全活動
4月	1日	玉木協力隊着任	
	4日	財団事務所屋根修理作業	粟畠に小豆を播く（カンナ-ジ）
	5日	竹富小中学校教職員事務所訪問	除草と耕耘（カンナ-ジ）
	7日		ペットボトルの減容
	8日	環境省石垣事務所の訪問 サンゴ保全活動家 山崎氏の来訪	
	11日		フクギ周辺の除草作業
	12日		漂着ゴミの回収、発送準備
	13日		粟畠の間引き、除草（カンナ-ジ）
	14日	教育委員会の旧与那国家視察	
	20日		ケルヒヤー除草の実証実験
	24日	サンゴフレンドシップフォーラム（石垣島）	
	24日	パークボランティア総会（環境省石垣）	
	25日		ケルヒヤー除草の実証実験 ピンの収穫と粟の間引き（カンナ-ジ）
5月	6日		ケルヒヤー除草の実証実験
	10日		漂着ペットボトルの減容作業
	13日	竹富町役場旧庁舎不用品引取・運搬	
	16日		海洋漂着ごみの分別
	17日	旧与那国家視察（狩俣氏、宮城茂雄氏）	漂着ペットボトルの減容作業
	18日		集落/海岸清掃（ドリーム観光）
	20日	令和3年度財団監査	西桟橋西側の漂着漁網を撤去
	23日	景観保全に関する検討会	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
6月	2日		ウッドチッパー作業（ギンネム）
	5日	サスティナブルアイランド石垣の視察	
	6日		ペットボトルキャップ回収箱制作・設置
	9日		フクギの除草（外周路沿い）
	16日		カンナージ畠の除草作業
	17日		漂着漁具のアップサイクル
	20日	漂着ゴミの運搬作業	
	21日		カンナージ畠の栗の食害虫駆除
	27日		ギンネム伐採
	28日		ウッドチップ作成
7月	4日	東京農業大学：玉木氏来訪対応	
	6日		カンナージ畠栗の収穫
	7日	竹富町入域料検討会の事前視察対応	栗の収穫
	8日	東京海洋大学：婁小波教授来訪対応	
	12日	入島券手売り（かりゆし館）再開	栗の収穫
	15日		旧与那国家の石垣積み作業
	22日	ユーグレナ社員視察対応	
	25～26日		栗の脱穀作業
	27日		カンナージ畠の除草作業
	29日	石垣島高校生：由羅氏来訪対応	
8月	2日	伝統工芸の未来と振興について研修会	旧与那国家住宅の整備
	3日	明治大学入域観光客アンケート（～26日）	フクギ回り除草作業/漂着ゴミ運搬
	5日	プラ固定ウミガメ型のオーバーホール	
	6日		ビーチクリーン（アイヤル浜）
	16日	景観リーダー研修参加（那覇）	
	18日		夜間ゴミ拾い（西桟橋UFOツアー客による投棄）ギンネムの駆除
	20日	海鳥保全シンポジウムin石垣島	ギンネム駆除、ウッドチッパー作業
	31日	沖縄ITイノベーション戦略センター来所	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
9月	2日	星のや竹富島パートナーシップ検討会	
	6日	ぶらまち竹富探索QRコード読み映像撮影	台風11号後の清掃
	9日	ジーンバンクに粟と麦の配布申込	
	13日		台風12号後の清掃
	16日	アラカタ文化企画（狩俣教授）意見交換会	
	20日	神奈川大学視察（町利用者負担検討会）	
	21日	竹富町利用者負担検討会（竹富町役場）	
	29日		星のやスタッフビーチクリーン（カンナージ浜）・座談会
	30日		竹富小中学校イイヤチづくり
10月	14日	ぶらまち竹富探検QRコード読み映像撮影 ぶらまち竹富探検告知、受付開始	
	19日	水圈科学・吉田氏意見交換	
	20日		カンナージ畠の伝統作物耕作作業
	22日		ぶらまち竹富探検（22・25・28日）
	25日	（株）豊島視察	
	27日		集落及び海岸の清掃
	30日		フクギ回りの除草
11月	2日	第8回協議会書面決議結果通達	
	8日		竹富小中学校生ビーチクリーン 海洋漂着ごみの搬出、発送
	10日	東京海洋大学パートナーシップ協定検討会	
	14日	やいまSDGsシンポジウムオンラインMTG	
	15日	事務所の建物の現状調査（施設の老朽化）	祭事用作物（ニンニク）の植付け
	16日	小学生とウミガメキーholダー作成	
	19日	やいまSDGsシンポジウムのモニターツアー	
	25日	ぶらまち竹富探検報告書提出	
	28日	やいまSDGsシンポジウムMTG	
	29日	藍の刈取りと漬け込み、糸芭蕉の剪定	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
12月	1日	藍の漬け込み	
	3日	やいまSDGsシンポジウム参加	
	7日	やいまSDGsシンポジウムモニターツアー	オオハンゴウソウ島内調査
	12日	財団監事による会計監察	
	14日	エシカルショップ竹富島小中学校	
	17日	竹富島自然学習歩道を歩く会	
	19日	竹富小中学校生と粟と麦の種子下ろし	
	21日	立命館高校、修学旅行の受け入れ打合せ	
	22日	竹富町利用者負担検討会（竹富町役場）	海洋漂着ごみの搬出、発送
	11日	星のや新人研修でツアー対応	
1月	21日	地域活性化についての協力隊ヒアリング	カンナージ畠の除草作業、 ハンマーナイフの試運転
	24日		伊原間100人向けビーチクリーン (縄文企画) の見学
	27日	自然観光課プレスツアーのミーティング 國學院大学観光まちづくり課オンライン会議	
	29日		伝統建築畜舎の解体作業と古材回収
	30日		外周路フクギ追加植樹
	31日		古材の運搬保管
2月	2~3日	竹富町自然観光課プレスツアー対応	
	8日	星のや竹富島パートナーシップ検討会	
	13日	上勝町ゼロ・ウェイスト案内	
	15日		雑穀に関する座談会
3月	1日	日本大学SDGs研究会ヒアリング対応	
	5日		立命館高校修学旅行受入 星のや竹富島ビーチクリーン講師
	14日	旧与那国家住宅の火災報知器点検	旧与那国家住宅の整備
	16日	第9回竹富島地域自然資産運営協議会	
	27日		旧与那国家住宅の整備

Action

竹富島地域自然資産地域計画概要

目的

- 1.亜熱帯の自然と島民の暮らしが育んだ竹富島の貴重な生態系と農村集落景観を保全・再生します。
- 2.目的1を達成するための調査研究、技術の継承、人材育成を推進するとともに、必要な協力体制と財源を確保します。

事業内容

①生態系と農村集落景観の保全・再生事業

- ◆島民の暮らしによる自然利用（生活、農業、文化等）の継承・復活事業
 - ◇植生維持・再生 ◇耕作地再生 ◇水辺再生 ◇景観維持・美化
 - ◇海域再利用 ◇自主利用ルール制定・実施
- ◆外来生物駆除・島の暮らしと関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業
 - ◇外来生物駆除 ◇植生再生

②調査研究、技術継承・人材育成、協力体制構築事業

- ◆調査研究、モニタリング事業
 - ◇陸域生態系の調査研究 ◇海域・海岸生態系の調査研究
 - ◇島材の利活用方法の調査研究 ◇地域自然環境保全等事業の効果検証
- ◆技術継承・担い手育成事業
 - ◇自然環境保全活動技術継承・リーダー育成
 - ◇島材活用技術継承・リーダー育成 ◇島の自然と文化伝承者育成
- ◆周知・広報事業
 - ◇広報誌発行 ◇ホームページによる周知・広報
 - ◇注意・案内板の設置 ◇協力要請・島内案内ホスター・チラシ等の発行

島民の暮らしによる自然利用 (生活、農業、文化等) の継承・復活事業

植生維持・再生

防風林の植林

目的: 環境変化や経年劣化。行政サポートや住民意識の低下により御嶽の森や防風林の植林が減少し、まちなみの輪郭部を形成する防風林植林が急務であることから防風林の植林を行う。

活動: 初年度より継続して外周路沿いに植樹した防風林(フクギ)の植樹活動を実施しています。以前に植えた木の間に新たな植樹を追加したり、曲がっている樹に添え木、剪定を行い、杭の打ち直しと育成維持に力を入れています。また引き続きイヌマキやフクギ苗をポットで育成し、島民にお渡しする活動も行っています。



Action

耕作地再生

耕作放棄地の再生

目的：竹富島には耕作が行われなくなり放置された農地が多くある。全国的に耕作放棄地の増加による景観の悪化や生態系への影響、伝統農法の消失が問題視されている。さらに竹富島では祭祀に関わる供物が島内で生産できなくなってきたことなどが懸念されており、この状況を打破するため2019年より活動を開始した。

活動：島のお年寄りの中には、粟を使った伝統食物の「イイヤチ」の味や色が昔とは違うと言う人が多かったことから今年度は専門家との共同調査から始めました。すると現在の粟は在来種ではなく複数の品種が交配混合していることが判明。そこで「ジーンバンク」に依頼をし、竹富島在来の粟と麦の種子を提供して頂き、竹富の小学生と共に財団で作成した木製のプランターに種を蒔き、現在、生長を観察しています。



景観維持・美化

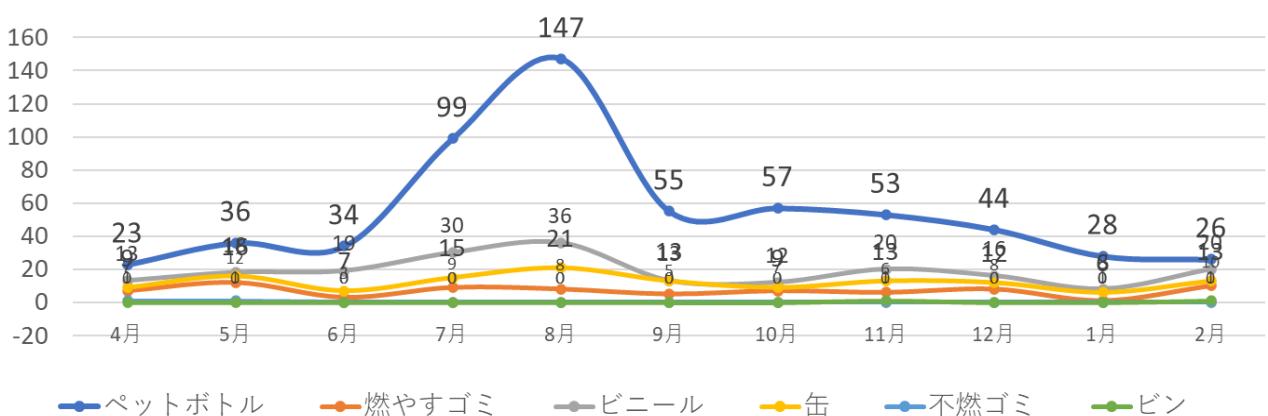
ゴミ問題の解決

目的:竹富島ではゴミ処理施設の対応能力オーバーという問題から、ほとんどゴミ箱の設置がない。これまで来島者の方々へはゴミの持ち帰りを推奨していたが、ポイ捨てが散見される上、ゴミを拾った方が捨てる場所もないという問題点もありその解消のためゴミ箱の設置と環境保全の啓蒙を行う。

活動:家庭内で出たペットボトルの蓋を回収するためまちなみ館と各支会の会館に回収箱を設置し、非食品用のポリ袋にアップサイクルするプロジェクトを行っています。また引き続き港に設置したゴミ箱の表示をマイナーチェンジをくり返しながらゴミ分別の啓蒙活動を行っています。加えて徐々に修学旅行が再開してきたため、生徒たちが観光している間、ドリーム観光さんと協力しながら島内のゴミ拾いを行っています。



2022年度 財団港ゴミ箱 分別一覧



Action

景観維持・美化

海浜清掃

目的:竹富島は3つの集落に分かれている。それぞれの集落が担当する海浜エリアがあり、定期的な清掃作業を行っているが、間に合わないほどの海洋漂着ゴミが流れついている。景観だけでなく生物や環境への負荷を軽減するためにも海浜清掃を行う。

活動: 今年度は竹富小中学校の海洋教育との連携を主として活動しました。学校でのビーチクリーンや、子どもたちが環境について考え開発した商品の販売を行う「エシカルショップ」のサポートを行いました。特にエシカル商品に関しては子どもたち自ら「漂着ゴミのキーホルダーを作りたい」という提案があり、漂着ゴミ拾い～洗浄～細断～成形まですべての工程を子どもたちと一緒にを行い、海亀のキーホルダーの作成、販売を行いました。



外来生物駆除・島の暮らしと 関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業

外来生物駆除

外来種の駆除と処分

目的: ギンネムをはじめとする外来種を伐採などの方法により、島の暮らしと関わりの深い植物の減少を防ぐ。

活動: 薬剤を使用しない外来種駆除を模索していたところ今回、ケルヒャージャパンにご協力いただき、高温高圧洗浄機を使用しての除草実験を実施しました。高温水を散布して間もなく葉が黒くなり、半日経つと枯れました。結果としては草刈り機や薬剤を使用した除草の代わりになるような成果は得られなかったのですが、今後も生態系に配慮した効率的な除草方法を探していきます。



Action

周知・広報事業

協力要請・島内案内ホスター・チラシ等の発行

島の現状活動のPR①

目的:来島者や島民が活動への理解を深められるよう、様々なメディアで発信を行う。

活動:石垣市民会館で開催された「八重山の海と島のフォーラム」に理事が出席しました。

「サンゴとくらす竹富島の農村集落景観」と題し竹富島と財団の取り組みを紹介しました。会場にはサンゴ礁を守るべく活動している事業者、団体、個人が集まりお互いの情報交換をしながらフレンドシップを結び八重山のサンゴ礁に関わる人々の輪を広げることを約束しました。



協力要請・島内案内ホスター・チラシ等の発行

島の現状活動のPR②

目的:来島者や島民が活動への理解を深められるよう、様々なメディアで発信を行う。

活動:島内の方から定期的に様々なお礼の品が寄付されます。竹富島の植物を使った玩具や海で拾ったプラスチックをアップサイクルしたものなど環境に配慮した返礼品をお渡ししています。また今年度より友利レンタサイクルに300円を入れると漂着ごみで作成した「海亀キーホルダー」や島野菜の種が入った「竹富島のタネ」が出てくる「竹富島入島料ガチャ」を設置しました。さらに入域料の用途がわかるポスターを事業所に掲示したり季刊紙をかりゆし館（竹富東港待合所）に設置したりと財団の活動周知を行っています。



Action

ホームページによる周知・広報

島の現状活動のPR③

目的：定期的な更新でホームページを見たくなるような仕組みづくりを目指す。また日本語以外での多言語表記を行う。さらにはホームページ以外の媒体での発信も図る。

活動：財団ホームページとインスタグラムでは定期的な活動レポートの更新を行っています。また今年度より財団での管理が始まった「旧与那国家住宅」の沿革や施設配置、建物内の名称と使い方が分かる解説ページをホームページ内に追加しました。

財団HP「旧与那国家住宅ページ」



旧与那国家住宅（国指定重要文化財）

沿革

旧与那国家住宅は大正2年に建築され、フーヤ（母屋）を中心に戦前までに整えられた竹富島の住居形態と生活様式を示す代表的民家です。

母屋である「フーヤ」と台所棟である「トーラ」を並べた分棟型の住宅で、「フーヤ」は沖縄地方の伝統的な間取りで、正面には石積みの「マイヤシ」が立ち、宅地周辺に「グック」と呼ばれる石垣を巡らされています。

旧与那国家住宅は、竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区の核となる住宅で、竹富島における近代の住居形態と生活様式を理解するうえで、高い価値があるとして、国内最西端の重要文化財建造物に指定されています。
(指定年月日：平成19（2007）年12月4日 指定番号：建第2520号)

技術継承・担い手育成事業

伝統的建築技術の継承

旧与那国家住宅の石垣修復・古材回収

目的:竹富島固有の町並みを生み出す伝統的な建物など。その建築技術を新しい世代に正確に継承する。

活動:国の重要文化財として登録されている旧与那国家住宅で、グック（石垣）の修復作業を行ないました。「野面積み」と呼ばれる伝統的工法でセメントなどを使用せず自然のまま積み上げるエコな建築技術です。また、石垣島で旧廄（きゅううまや）を解体するという情報があり、財団で解体作業および古材回収を行い竹富島で古材の利活用促進のため保管をしています。



その他

美ら島おきなわ文化祭2022

ぶらまち竹富探検

目的：美ら島おきなわ国民文化祭2022の一環として竹富島の「美ら島おきなわ文化祭2022」として開催し、竹富島の魅力を県内外に発信すること。

活動：国指定重要伝統的建造物群保存地区に指定された町なみを維持し、沖縄を代表する観光地でもある竹富島において、島の成り立ちや自然環境・歴史文化を巡るツアーを通して島内の魅力を伝えることを目的に実施した。また、東パイザーシ御嶽／安里屋クヤマ生誕の家/赤山公園/世持御嶽に各スポットの説明動画を鑑賞できるQRコードを設置した。



Action

重要文化財の管理

旧与那国家住宅の活用

目的：国の重要文化財である旧与那国家住宅の管理活用を行う

活動：今年度より財団で旧与那国家住宅の指定管理を受託しました。日々の開閉館作業に加え、敷地清掃や入館料（300円／名）の管理、解説パネル、パンフレットの設置などを管理業務として行っています。また種子取祭前には小中学校の子どもたちとの「イイヤチ」作り教室や東京農業大学の学生や島の古老を招いて昔ながらの雑穀栽培についての座談会を開催するなど多岐にわたる活用をしています。



Public Relations

島内季刊紙（B4）

〇 2022 年入島料収受実績

2022 年 1 月～の島料収受実績は下記のようになります。7月からの観光客増加に伴い若干の回復傾向を見せておりましたが、コロナ以前の数字には遠く及ばず、相変わらず収受率 10 %前後と大変厳しい収受実績となっております。

今後とも情報拡大に向けたご協力をよろしくお願いします。

入島料取扱数

A bar chart titled "入島料取扱数" (Arrival Fee Collection) showing monthly data from January to December 2022. The y-axis represents the number of visitors, ranging from 0 to 6,000. The x-axis lists the months. Each bar is labeled with its value at the top. A legend indicates that blue bars represent "島料取扱数" (Arrival Fee Collection). The data shows a general downward trend from January to December.

月	島料取扱数
1月	1,774
2月	1,196
3月	2,995
4月	2,981
5月	3,138
6月	2,413
7月	5,889
8月	5,903
9月	3,671
10月	3,725
11月	3,190
12月	3,620

■島料取扱数 1374 1106 2098 2001 3138 2113 5,889 5,903 3,671 3,725 3,190 3,620

お知らせ

ペットボトルキャップの回収をご協力ください

ご家庭で出たペットボトルのキャップを集めるとビーチクリーン用のボリパッケに生まれ変わります

回収ボックスは下記の場所に設置してあります。

- ・財団事務室 (JR ビルセンター)
- ・まちなか館
- ・島のや当舎 いんのや当舎
- ・竹富島資源循環センター

ご家庭で出たキャップのボリパッケにご協力をお願いいたします。

一般財団法人

竹富島地域自然資源財團

〒979-1010

沖縄県八重山郡竹富町字中野 527-1

TEL:0980-72-2400 FAX:0980-72-2801

MAIL:info@okinawachuraumi.com



入域料説明用ポスター

ぶらまち竹富探検ポスター

**竹富島の入島料に
ご協力をお願いします**

祖先より受け継ぎ、育んできた
自然や祭祀、伝統工芸、まちなみみを
100年後もつなぐために
竹富島では入島料を募っています。

ビーチクリーン

ゴミ箱の設置

伝統的な畑作

竹富島の美しい海のため、ゴミの運行を行なったときに、海岸ゴミスチーランの設置や歩道ゴミを運搬するキーホルダーなどと協力して活動しています。

他にも様々な環境保全事業を行なっています。詳しくは竹富島財団HPをご覧ください

入島料（300円）は竹富島の港「かりゆし館」のカウンターにてお支払いいただけます。ご協力いただくと『竹富島入島証明書』

Public Relations

旧与那国家パンフレット

旧与那国家住宅

施設の性格

旧与那国家住宅は大正2年に建築され、フーヤ（母屋）を中心に戦前までに整えられた竹富島の住居形態と生活様式を示す代表的民家です。

母屋である「フーヤ」と、台所棟である「トック」を並べた分棟型の住宅で「フーヤ」は沖縄地方の伝統的な間取りで、正面には石積の「マイヤン」が建ち、宅地周囲に「グック」と呼ぶ石垣を巡らせています。

旧与那国家住宅は、竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区の核となる住宅で、竹富島における近代の貴重の建築様式を理解するうえで、高い価値があるとして、国内最西端の重要文化財建造物に指定されています。

施設の配置

ご案内

■入館日：台風時・島の祭事行事を除く日
■開館時間：午前9時～午後5時
■入館料：大人300円 中学生以下無料

交通のご案内

■竹富東港より
・徒歩：約15分
・バス：仲筋井戸（バス停）まで約5分

■所有者：竹富町
■管理者：竹富島地域自然資産財団
■問合せ：0980-85-2800（竹富島地域自然資産財団）
0980-87-6257（竹富町教務委員会）

**国指定重要文化財
旧与那国家住宅**

記念日：平成19年（2007）12月4日 登録番号：登第2520号

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

旧与那国家住宅 フーヤ（主屋）平面図と建物の使い方

クゥール
食料を保管する貯蔵庫です。

カマーノハタ
家主がお茶を淹れる小さな竈が置かれています。竹富島の屋敷は、火を扱う炊事場は別棟となります。但し本邸国家住宅では、要人が多数訪れるためすぐにお茶を提供できるようにカマーノハタが置かれていたと考えられます。

三番座
旧与那国家住宅では西側が下座となります。三番座は日常生活を過ごす部屋として、使われていました。

サンジャコー
旧与那国家住宅は、要人が多く訪れる屋敷でした。家のお手伝いさんを待機させる座としても使われていました。ルククインとサンジャコーがある屋敷は、竹富島でも数少ない屋敷といえます。

二番座
仮壇が安置される部屋で、仏事はこの座で行われます。親戚などの客間としても利用されていました。二番座の奥にある「トック」とは仮壇のことです。

二番裏座
家主の父母の寝室です。

一番裏座
家主の寝室です。
竹富島ではヨーと呼ばれます。

一番座
旧与那国家住宅では東側が上座となりますので、一番座は最も格の高い部屋で、来賓者を招く応接間の役割を果たします。また、神事は一番座で行います。「ザートック」とは床の間のことです。

ルククイン
子どもたちの寝室です。
賓客を招いた際に従者が寛ぐ座として利用されていました。

ファンター
経畳のことです。「踏み板」の説り語と言われています。
昔はこのファンターで機織りをする風景がよく見られました。

About Us

組織概要

名称 一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

設立 2019年5月30日

所在地 〒907-1101

沖縄県八重山郡竹富町竹富207-1

目的 この法人は、『竹富島憲章』を遵守し、竹富島地域自然資産保全区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進のために活動し、島民の心身の健全な発達及び自然環境と文化の保全に寄与し、地域社会へ貢献することを目的とする。

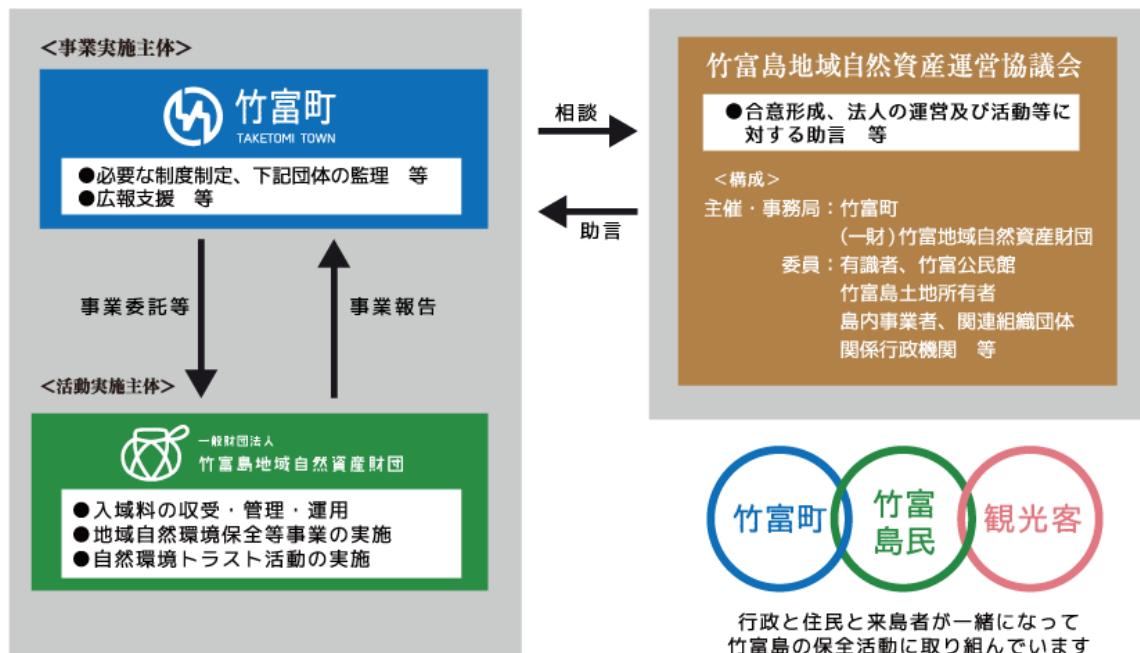
役員 ●理事長：上勢頭 篤

※50音順 ●常務理事：市瀬 健治／水野 景敬

●理事：井上 寛文／上勢頭 輝／上勢頭 巧
上勢頭立人／内盛 正基／大浜信一郎
前本由貴子

●評議員：内盛 正聖／内盛 良枝／大山 榮一
島仲 彌喜／野原 健

●監事：阿佐伊 拓／大政司



Donation

竹富島では、そんな遠くない昔。

あまり便利とは言えないけど、自然体で暮らせるこころ豊かな時代がありました。

島の中で祖先より長い時間をかけて受け継がれ育くまってきた環境。自然の中に織り込まれた伝統工芸や祭祀、そして美しい町並みなど、他にはない竹富島の環境を守るためご支援をよろしくお願ひします。

竹富島の環境保全活動のために 寄付をお願いします

寄付の方法

下記申し込みフォームまたは、寄付申込書でお申し込み後、当財団指定の銀行までお振込をお願いいたします

寄付申し込みフォーム

<https://taketomijima.okinawa/dons/donsform>

FAXまたは郵送での申し込み

<https://taketomijima.okinawa/wp/media/format.pdf>

お支払い方法

銀行名 琉球銀行 支店名 [店番号] 八重山支店 [703]

口座種別／口座番号 普通預金／1020723

口座名義

サイ) タケトミジマチイキシゼンサンザイダン
一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

